

DOCUMENT series 183 Eye

混合交通を観察する

「キス&ライド」という言葉をご存知だろうか?これは「家族がクルマで自宅から最寄りの駅まで通勤・通学者を送り迎えすること」で、20年ほど前から公共交通機関のあまりない郊外の駅などでは日常の光景となっている。特に朝の通勤・通学時間帯の駅周辺は、急停車するクルマや降車する同乗者のマナー違反などでヒヤリとさせられることがある。新年度が始まった4月上旬、郊外の駅周辺でキス&ライドを行うクルマを観察した。

キス&ライドは安全に行われているか?

WHY



観察場所 / 神奈川県横浜市青葉区あざみ野2丁目
東急田園都市線・横浜市営地下鉄「あざみ野駅」周辺
観察日 / 4月8日(金曜日)
天候 / 晴れ
観察時間 / 7:00 ~ 8:00(1時間)
観察者 / 5名

通勤時におけるキス&ライド家族によるクルマでの送迎(の状況)を観察する 駅で降車した助手席の同乗者2002名中 シートベルトを着用していたのは35名



写真上 / 降車するやいなや、駅に向かって駆け出す同乗者
写真下 / 交差点内で降車する同乗者

不十分な安全確認でクルマから飛び出す同乗者多数

WATCHING

観察場所は横浜市青葉区の東急田園都市線「あざみ野駅」周辺。駅前ロータリーおよび「あざみ野駅前」交差点(2方向)の計3カ所で通勤・通学時間帯の午前7時からキス&ライドを行うクルマを対象に、同乗者のシートベルト着用状況や降車時の安全確認状況を中心に観察を

行った。



近くにある横断歩道を使わず車道を渡る人が多かった

通勤・通学者の送迎のピークとなる午前7時から1時間では、合計で271台(降車295人)が観察された。駅前ロータリー、駅前の交差点付近とも、駅改札口に一番近い場所降車を行っていた。送迎のクルマは乗用車がほとんどで、実に8割近くが同乗者の妻や母親と見られる女性ドライバーだった(男性ドライバー58人、女性ドライバー213人)。キス&ライドの271台の内訳は、親子と見られる組が112台、夫婦と見られる組が108台、家族で複数乗車の場合が13台、その他(親子・夫婦・家族以外)が38台だった。送ってもらった同乗者も学生や父親以外に、男女を問わず20代と見られる会社員も多かった。

同乗者のシートベルト着用状況だが、助手席の202人中着用していたのはわずか35人で、残りの167人がシートベルトを着用していなかった。後部座席の93人全員も同じくシートベルトを着用

このほか、駅前交差点付近では前に乗降のために停まったクルマが連なったり、交差点内で同乗者を降車させた例も見られた。また、降車後、近くの横断歩道を利用せず車道をナメ横断する同乗者もかなりの数を見かけた。

PROPOSE

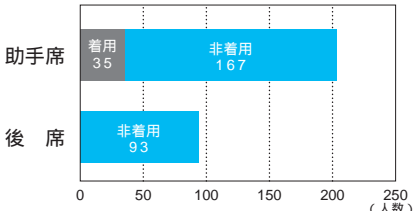
急いでいてもシートベルトはクルマが完全に停止するまで着用

キス&ライドを行うドライバーはほぼ毎日、同じ時間帯に同じ場所で家族を降車させている。どのクルマもキス&ライド

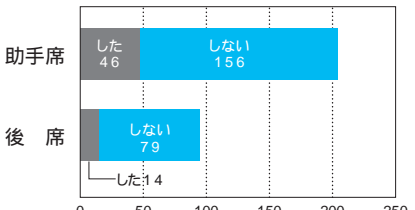
していなかった。観察はクルマの停止直前から降車時のみだったため、途中まで着用していて、駅の近くで降車に備えてシートベルトを外したのではないかと考えられる。

十分に慣れているようだが、同乗する家族に対してのシートベルト着用の徹底や、降車時の安全確認などの事故防止については不十分だと言わざるを得ない。クルマが無秩序に停止や発進をする駅の降車場所では追突の危険性が高まる。ドライバーは完全にクルマが停止するまでシートベルトを締めなくてはならず、同乗者に注意する必要がある。また、混雑のため周囲のクルマがスピードをほとんど出していないから、降車時の安全確認を怠るのは危険である。急いでいる通勤・通学者が気をつけるだけでなく、ドライバーも周囲の安全を確認した上で同乗者を降車させなければならない。

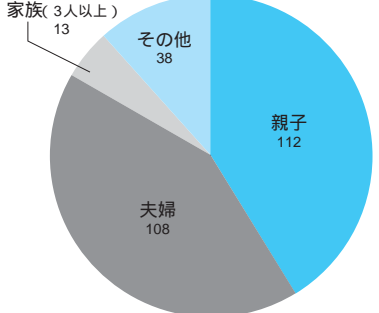
シートベルト着用状況(人)



安全確認状況(人)



組み合わせ(組)



親子、夫婦、家族、その他の判断は観察者の見解による

ドライバー&ライダーがお互いの交通行動を理解し合える小冊子
「トラフィック・コミュニケーション」発行
 (ドライバーからライダーへ、ライダーからドライバーへ)

ホンダはドライバー、ライダーがお互いの交通行動を理解し合える小冊子「トラフィック・コミュニケーション」(ドライバーからライダーへ、ライダーからドライバーへ)を作成した(監修:長江啓泰・日本大学名誉教授)。この小冊子は四輪車・二輪車の特性をそれぞれ取り上げ、事故事例と照らし合わせて解説したもので、お互いを知ること、うまくコミュニケーションを取り、お互いに認め合う交通社会をめざすことを目的としている。主にホンダの四輪販売会社、二輪販売店で営業スタッフがお客様にお渡しする。

主な内容
 「コミュニケーション」出会い頭事故
 「コミュニケーション」右折直進右直事故
 「コミュニケーション」追突
 「コミュニケーション」単独事故
 「コミュニケーション」高速道路の走行
 特別付録「クルマとバイクのふれあひ」

お問い合わせ先
 本田技研工業(株)
 安全運転普及本部
 TEL048-452-0304